

口・鼻からの吸引
パンフレット

吸引



独立行政法人
国立長寿医療研究センター
National Center for Geriatrics and Gerontology



このパンフレットは、独立行政法人国立長寿医療研究センター
在宅医療支援病棟で使用している吸引指導用パンフレットを元に、
「厚生労働省平成23年度チーム医療実証事業委託費」により作成し
ました。

このパンフレットを参考にしながら、入院中、在宅療養中に吸引手技
を獲得するために利用されることを想定しています。常に内容を検討
し改訂を重ねて参ります。ご意見などをお寄せください。

吸引という手技へのご本人・介護者さんの不安を、このパンフレット
で少しでも軽減できることを願います。



吸引とは・・・

痰や唾液、鼻汁などを自分の力だけでは十分に出せない場合に、器械を使って出す手伝いをすることです。吸引は、ご本人にとって決して楽なものではありません。しかし、痰や唾液を取り除くことで、呼吸を楽にし、肺炎などの感染症を予防するために必要なことです。

このパンフレットでは吸引をするにあたっての準備から基本的な方法、注意点を記しました。適切な方法は人によって異なりますので、基本的な注意点に気をつけながら適宜修正してご利用ください。

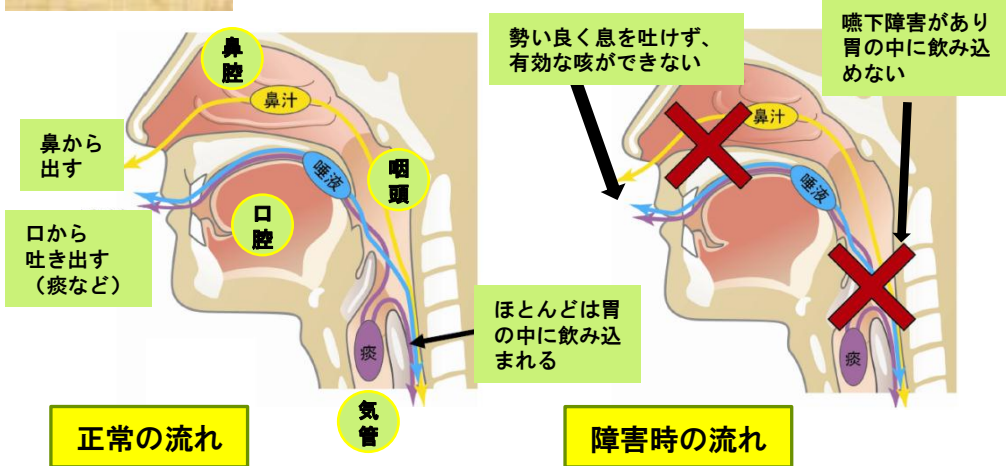
- I. 基礎知識
- II. 必要物品
- III. 吸引の方法
- IV. 吸引での注意点
- V. 達成度チェック表



独立行政法人
国立長寿医療研究センター
National Center for Geriatrics and Gerontology

I 基礎知識

分泌物の流れ



障害により唾液、痰、鼻汁をうまく処理できずに鼻腔、口腔、咽頭、気管内に分泌物がたまってしまうため、吸引器を使って除去する必要があります。

どのようなときに吸引を行うか

- ・本人が望んだ時
- ・唾液、痰がたまってゴロゴロしている時
- ・呼吸時にゼーゼーしていたり、異物の音がする時 など。

必要なタイミングはそれぞれ異なります。医師・看護師などどのようなタイミングで吸引を行うか相談をしましょう。

II 必要物品

吸引器

様々な吸引器があります。



レンタルや、市町村の補助を利用して購入することができます。どれほどの期間使用するかによって変わってきますので、入院中の場合は病院スタッフ（社会福祉士、精神保健福祉士、退院調整看護師など）、在宅療養中の方は医師や訪問看護師に問い合わせください。



吸引カテーテル



調節孔

カテーテルはたくさんの種類がありますが、大きくは調節孔のあるタイプと無いタイプに分かれます。（在宅では孔の無いタイプが主流ですのでこのパンフレットでは孔の無いタイプを使用した説明をしています）



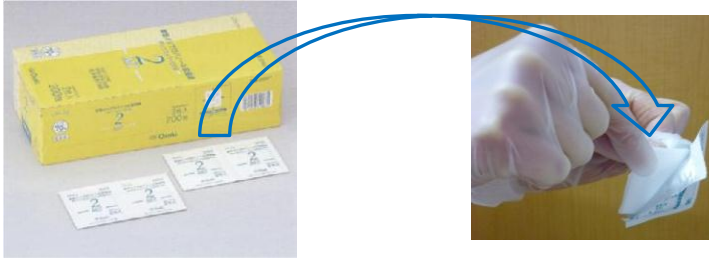
＜調節孔の無いカテーテル＞
根元を折り曲げると吸引されず、
伸ばすと吸引ができます。



＜調節孔の有るカテーテル＞
孔を開けたままだと吸引されず、
指で塞ぐと吸引される。
滅菌手袋が同封されているもの
もあります。

II 必要物品

アルコール綿



1回分ずつ個別包装されているものが清潔で使いやすいです。

※吸引カテーテルの再利用について

使い捨てでは費用もかかりますので、家庭では吸引カテーテルの再利用も可能です。使用済みカテーテルを中性洗剤等できれいに洗浄し、陰干しで乾燥させ使用しましょう。再使用時にはアルコール綿で外側をぬぐって消毒します。

黄ばんでいる、又は亀裂が入っているようなら新しい物に交換して下さい。

※吸引カテーテル、アルコール綿について

アルコール綿、吸引カテーテルなどの処置に必要な医療材料の入手方法は医療機関ごとに異なります。医療材料をどこで、どのように譲り受ける、または購入するかはかかりつけ医と相談してください。

入院中と在宅では使用する種類が異なる可能性があります。



III 吸引の方法

1、手を石けんでしっかりと洗います。

2、コップにカテーテル、接続管内洗浄用の水を準備します。

水は水道水で構いません



3、吸引器の電源を入れ、吸引カテーテルを接続管につなぎます。



- * 吸引カテーテルの先は清潔です。他に触れないようにしましょう。
- * アルコール綿もこの時に準備をしておきましょう。
- * 使い捨て手袋があれば、スイッチを入れた後にはめて行いましょう。



接続管：吸引器と吸引カテーテルをつなぐ管のことです

4、吸引圧の調整をします。

吸引圧調整つまみ



吸引圧メーター



根元を折り曲げて圧が上がるか確認します。

* 吸引圧は-20~-40kPa以下で調整します。

III 吸引の方法

5. 利き手で吸引カテーテルの中央を持ち、もう片方の手でカテーテルの根元を持ちます。



先端から手で持っている所までは清潔です。どこにも触れないようにしましょう。



利き手の親指、人差し指、中指で鉛筆を持つようにカテーテルを持ちましょう。



* 再利用の吸引カテーテルは、アルコール綿でカテーテルの中央から先端に向かってぬぐって、清潔に消毒してから使用します。



6. ご本人へ「痰を取りますよ」と声かけし、吸引カテーテルの根元を折り曲げ、ゆっくり鼻・口に挿入します。

根元を折り曲げると吸引圧がかかりません。

鼻



口

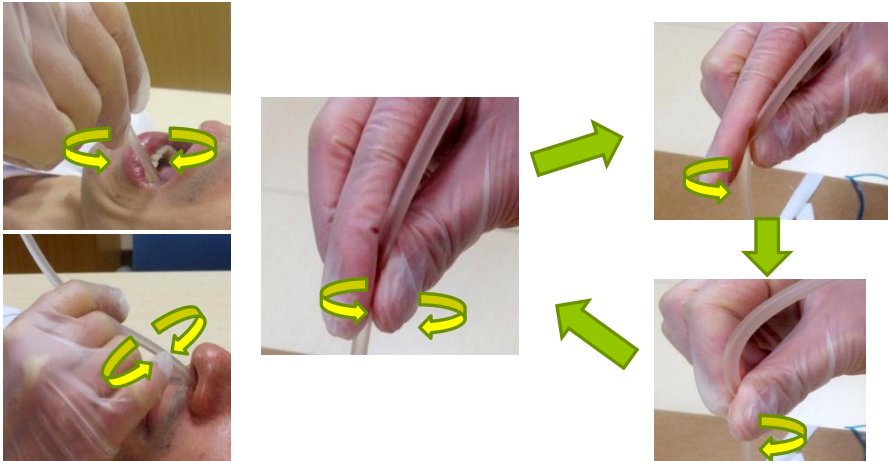


カテーテルを挿入する長さの目安は、口腔内は10～12cm、鼻腔は15～20cmですが、人それぞれ異なりますので、適切な長さの目安を確認しましょう。



III 吸引の方法

7、十分な深さに挿入したら、根元を押さえていた指を離して吸引圧をかけ、粘膜を傷つけないように、カテーテルの先をくるくると回しながら、ゆっくりとカテーテルを引き抜き吸引します。

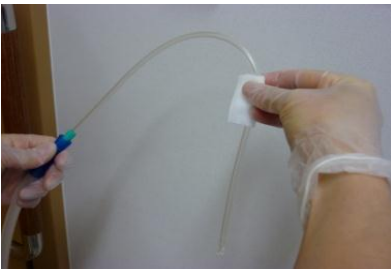


指をこするようにしてカテーテルの先をくるくる回します。

- * 1回の吸引時間は10～15秒以内としましょう。
- * 吸引の途中や後に、呼吸の様子・顔色・唇の色などが悪くなっていないか注意しながら行います。状態が悪そうならば、吸引をすぐに中止しましょう。
- * 痰の色や臭い、量なども観察しましょう。



8、吸引カテーテルの外側に付着した痰をアルコール綿で拭き取ります。



カテーテルの中央から先端に向かってめぐって外側をきれいにしましょう。



III 吸引の方法

9、カテーテル内洗浄用の水を吸い、カテーテル、接続管の内側をきれいにします。



カテーテル内がきれいになるまで水を吸いましょう。

吸引を終了する際は接続管内もきれいになるまで水を吸いましょう。



- * 1回の吸引で痰が取りきれない時や、本人が希望される時は、必要に応じて6～9の作業を繰り返します。
- * 吸引を続けて行う時は少し時間をあけてから行いましょう。
- * カテーテルに痰が詰まって吸引しにくい時はカテーテルを交換しましょう



10、接続管からカテーテルを外し、カテーテルを包み込みながら手袋を外して、吸引器のスイッチを切ります。(使い捨ての場合)



- * 吸引カテーテルは1回の吸引が終わるたびに新しいカテーテルに交換した方が、手間は少なくて済みます。
- * カテーテル再利用する場合は、「II必要物品」の吸引カテーテル、アルコール綿の項を参照してください。

III 吸引の方法

11、カテーテル内洗浄用の水を捨て、手をきれいに洗いましょう。

12、吸引びん内に汚物が7～8割たまったらトイレに流し、台所用洗剤などで洗浄しましょう。吸引びんはそれほど貯まらなくてもできるだけ毎日洗浄しましょう。



- *吸引はご本人にとって非常につらい行為です。ねぎらいながら、本人の体調にあわせて行いましょう。
- *上記の手順は標準的な方法を示しています。人によって適切な方法は異なりますので、看護師などと相談をしながら適宜修正して行なってください。



IV 吸引での注意点

1. カテーテルを鼻に入れる時に、無理やり押し込むと粘膜を傷つけ出血する恐れがあります。無理に押し込まず、角度の調整、左右の鼻の穴を変えるなどしましょう。
2. 口からの吸引の際、喉の奥をつつくと吐き気を催しますので、注意が必要です。
3. 吸引時間が必要以上に長いと（特に状態が不安定な方）、息ができずに危険な状態になります。無理をしないようにしましょう。
4. 状態が変化した際などの緊急連絡先（訪問看護、在宅医など）を確認しておきましょう。
5. 清潔に行い、感染予防のために下記のような注意が必要です。
 - ・吸引の前には手をよく洗いましょう。
 - ・使用後の吸引カテーテル、接続管は水をしっかりと通してきれいにしましょう。
 - ・接続管内に水が残らないにしましょう。

最初は怖いかもしれませんが、慣れれば大丈夫です。頑張って覚えましょう！！



○一人でできる ○助言でできる
 △一緒にできる ▲見学した
 などの記号をいれ、達成度を確認
 しましょう。

V 達成度チェック表

チェック項目	1 回目	2 回目	3 回目
1、手をしっかり洗うことができる			
2、管内洗浄用の水を準備できる			
3、手袋をはめ、吸引カテーテルを取り出し 接続管につなぐことができる。			
4、吸引器の電源を入れ、吸引圧の調整を することができる。			
5、カテーテルを適切に持つことができる。 ※カテーテル再利用時はアルコール綿で消毒			
6、声かけし、吸引カテーテルを適切に鼻・口 に挿入することができる。 ※カテーテル挿入の長さがわかる。			
7、ゆっくりとカテーテルを引き抜きながら 吸引をすることができる。 ※1回の吸引時間 ※吸引中の状態観察 ※痰の観察			
8、吸引カテーテルの外側に付着した痰をアル コール綿で拭き取ることができる。			
9、カテーテル、接続管の内側を洗浄用水で きれいにできる。 ※痰が取りきれないときは6～9の手順を繰り返 すことができる。			
10、接続管からカテーテルを外し、カテーテ ルの処理ができる。 ※（カテーテル再利用する場合）カテーテルを 適切に再利用することができる。			
11、カテーテル内洗浄用の水を捨てて手を洗 うことができる。			
12、吸引瓶の処理ができる。			

企画・制作
サプライセンター準備プロジェクトチーム

国立長寿医療研究センター

高齢者総合診療科 洪英在
医療社会事業専門員 近藤秀憲
在宅医療支援病棟看護師 杉本薫
臨床工学部 森 健児

株式会社ヤガミ製作所 大府営業所
近藤 洋行

制作協力

訪問看護ステーションななみ
・キャンナス名古屋
富士 恵美子

JA 長野厚生連 佐久総合病院
地域ケア科 小松 裕和

国立長寿医療研究センター
在宅医療支援診療部 三浦久幸
在宅医療支援病棟 師長 尾崎充世
在宅医療支援病棟看護師のみなさん

問い合わせ

〒474-8511

愛知県大府市森岡町源吾35番地

独立行政法人 国立長寿医療研究センター

TEL (0562) 46-2311(代表)

FAX (0562) 48-2373